



所属	生命環境系
氏名	菅谷 純子 教授
分野	果樹生産利用学
HP	<a href="http://www.agbi.tsukuba.ac.jp/~kitamurafpe/index.html">http://www.agbi.tsukuba.ac.jp/~kitamurafpe/index.html</a>

## 思わずかじりつきたくなる香りのする桃

### 概要

近年、果樹生産の現場では、温暖化や異常気象、生産者の高齢化などの多くの問題が生じています。永年性植物の果樹を研究するには、樹体と果実の両方から栽培学・生理生化学・分子生物学などの様々な角度から研究を行ってゆく必要があります。落葉果樹と熱帯果樹を対象に、温度などの環境要因が樹体や果実に及ぼす影響や、新たな栽培法を研究しています。温帯果樹の芽は秋から冬にかけて休眠に入り、一定量の低温に遭遇することで正常な萌芽が可能になります。暖冬などで低温量が不足すると、萌芽の遅延や不揃いが起こる他、芽が壊死するなど深刻な問題が生じています。そこで、二ホンナシやモモの花芽の休眠生理について代謝や水分生理の変化、分子レベルの変化について調査し、この現象のメカニズムを明らかにすることを目指しています。

黄肉桃  
ちよまる(極早生)



白肉桃  
ちよひめ(極早生)



### 従来技術・競合技術との比較、新技術の特徴

果実の香気は果実品質の重要な要因の一つですが、組成に関する研究はあるものの、栽培条件や貯蔵条件、その生成の制御メカニズムについては明らかになっていません。そこで、品種や、栽培条件、発育段階や貯蔵期間における香気の変化についてガスクロマトグラフィーなどを用いて分析し、果実での香気成分の生成の制御について研究を行っています。この研究により、より良い香りを持つ果実を栽培する技術や、保蔵条件の確立、育種につながります。

### 想定される用途

- 香りの良い桃（果実）の育成

